

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	共立女子短期大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
生活科学科	—	夜・通信	20	—	46	66	7	
文科	—	夜・通信		—	22	42	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/jitsumukeiken_kyoin.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	共立女子短期大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/history/</p> <p>学園の組織と沿革 役員名と寄附行為に記載</p>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	江戸川大学名誉教授	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	共立女子大学名誉教授	2021.4.1 ~ 2024.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	弁護士	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	HOYA（株）社外取締役 （株）日立物流社外取 締役	2022.4.1 ~ 2025.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	（社福）三井記念病院 長	2020.4.1 ~ 2023.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営

非常勤	—	2020.4.1 ~ 2023.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
非常勤	一般社団法人共立女子 大学・共立女子短期大 学櫻友会会長 (株) ユミカツライン ターナショナル代表取 締役社長	2021.4.1 ~ 2024.3.31	法人全般にわたる 業務の管理・運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	共立女子短期大学
設置者名	学校法人共立女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全授業科目について、シラバスを作成し、公表している。シラバスには、「科目概要」「到達目標」「単位修得目標」「授業形態」「授業方法」「授業の進め方の概要」「各回の授業内容」「事前・事後学修」「成績評価の基準」「評価の方法と配分」「テキスト」「参考文献・参考Webサイト等」「課題図書」「履修者へのメッセージ」を記載している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>https://kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業計画（シラバス）策定時、①試験、②レポート、③（授業内）小テスト、レポート、④平常点（学習意欲、履修態度等）、⑤その他の評価方法を適切に用いて成績評価を行うよう計画をしている。また、成績評価実施時は、当該授業科目の到達目標に照らし、評価基準を以下のように定め、厳正な成績評価を実施している。

(成績評価)	(素点)	(内容)
S	90～100点	到達目標を超えたレベルを達成している
A	80～89点	到達目標を達成している
B	70～79点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している
C	60～69点	単位修得目標を達成している
D	59点以下	単位修得目標を達成できていない

※グレード・ポイント

S : 4.0、A : 3.0、B : 2.0、C : 1.0 D・X : 0.

※到達目標：当該授業科目が目指す学修成果のレベル

単位修得目標：当該授業科目で最低限修得すべき学修成果のレベル

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAを導入しており、GPA値については学生に公表している。また、GPAの考え方や活用等基本方針についても履修ガイド、ホームページで公表している。成績の分布状況については、GPAの分布状況について、前期・後期各1回把握し、各学部の結果を公表している。把握したGPAに基づき、以下のような対応を行っている。</p> <p>①学期GPAが1.4以下の学生に対しては、本人を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行う。</p> <p>②学期GPAが2学期連続1.4以下を、または在学期間のうち3学期分がそれ以下になった学生に対しては、本人および保証人を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行う。</p> <p>③学期GPAが3学期連続1.4以下を、または在学期間のうち4学期分がそれ以下となった学生に対しては、学生の状況に応じ、成業の見込みを教授会で審議の上、退学を勧告することがある。</p> <p>④GPAが高く、学業が特に優秀と認められる学生に対しては、教授会で審議のうえ、表彰を行うことがある。</p>	
<p>GPA算出</p> <p>(科目の成績評点(GP)×単位数)+…+(科目の成績評点(GP)×単位数)÷登録科目の総単位数(評価D・Xの単位数も含む)</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/about/purpose/gpa.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、公表している。各学部において、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムチェックを実施し、各授業科目の到達目標を定めている。各授業科目においては、到達目標の達成水準を基準に成績評価を行っている。したがって、各授業科目における成績評価を適切に行うことで、適正な単位の認定が行われ、卒業要件単位を満たすことにより、ディプロマ・ポリシーの要件を満たすことを保証している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/purpose/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	共立女子短期大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
収支計算書又は損益計算書	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
財産目録	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/financial/kessan/
事業報告書	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/plan/
監事による監査報告(書)	ホームページ掲載 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/kanji/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:毎年度)
公表方法:HP公表(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/plan/)	
中長期計画(名称:第二期中期計画(2018年4月~2023年3月)対象年度:2018年度から2022年度)	
公表方法:HP公表(http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/release/termplan/)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/hyouka.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ掲載 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/hyouka.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活科学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html ）
（概要） 生活科学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身の積極的な学習意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことである。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html ）
（概要） 生活科学科は、本科の課程を修め、62 単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。 （1）社会に広く貢献する自立した女性として求められる幅広い教養と、生活科学に関するメディア、デザイン、食、情報、環境等の分野における知識・能力を身に付けている。（知識・理解） （2）家庭および社会において、生活者として知識を活用するために必要な、メディア、デザイン、食、情報、環境、コミュニケーション等に関する能力を身に付けている。（技能） （3）実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付けている。（思考・判断・表現） （4）積極的な学修意欲を持ち、思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身に付けている。（関心・意欲・態度）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/human_resources.html ）
（概要） ●生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、メディア社会コース、生活デザインコース、食・健康コースの 3 つのコースに沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。 ●生活科学の学問分野の基礎的な知識・技能を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、課題に基づいて学生が主体的に研究・制作に取り組む『特別演習系科目』をコース共通科目として配置する。 ●メディア社会コースでは、メディアについての社会状況を理解する「①メディア会」、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養う「②メディアデザイン」、メディアが生活者の行動・心理に及ぼす影響を理解する「③社会心理」の 3 分野の科目を体系的に配置する。 ●生活デザインコースでは、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、デザインする能力を身に付ける「④プロダクトデザイン」、衣服やその装い方を対象に、アパレルの制作からマーケティング、企画などの実践的応用力を養う「⑤アパレルデザイン」、住居や住空間を対象に、知識やその原理に加えて、設計、製図、インテリア CAD など初歩から高度な応用までを学び、提案する能力の修得を目指す「⑥インテリアデザイン」の 3 分野の科目を体系的に配置する。

●食・健康コースでは、食品の栄養成分、食物の性質、献立、食べ方、ライフステージと栄養など、健康維持に必要な知識・技能を養う「①食と健康系（知識）」、食品の加工、調理の理論と実践、栄養と健康の関係等の健康づくりの基礎的素養、人間の行動習慣と健康に関する問題発見から解決手法を養う「②食と健康（実践）」、フードスペシャリスト資格取得のための必修科目と認定試験に対応した補講・模擬試験の実施やフードコーディネートの表現手段を身に付ける「③資格支援」の3分野の科目を体系的に配置する。

●上記、3つのコースの科目を一定の範囲内で横断的に履修し、幅広い知識と教養を育成する。（7）生活科学科と文科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学共通講座講座（14テーマ）」を配置し、各テーマに属する科目（教養教育科目、両学科専門科目）を受講することで、その領域の問題意識を深め、考察力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

（概要）

生活科学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

（1）生活科学の各分野について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識を有し、かつ入学後の修学に必要な技能を有している。（知識・技能）

（2）高等学校までの履修内容のうち、「国語」「外国語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎を、「数学」「理科」を通じて科学的思考力の基礎を、さらに「地理歴史」「公民」を通して生活や社会の構造を理解するための基礎を身に付けている。（知識・技能）

（3）自らの考えや感じたことを表現する基本的な能力を有している。（思考力・判断力・表現力）

（4）生活科学の学びの中で発見する諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付けることができる。（思考力・判断力・表現力）

（5）生活科学の領域に強い関心を持ち、自主的に学ぼうとする意欲と誠実に探究していく態度を有している。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

（6）将来にわたり、生活にかかわる諸課題を主体的な情報収集と他者との対話を通して探求する意欲を有している。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

学部等名 文科

教育研究上の目的 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/junior_college/bunka/purpose/)

(概要)

文科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方ができるような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

卒業の認定に関する方針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/junior_college/bunka/purpose/)

文科は、本科の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 社会に広く貢献する自立した女性として求められる基礎的な教養として、日本の文学・文化、心理学、異文化等への一定の知識を身に付けている。また、理解する力を身に付け、それらの知識を他者に伝える能力を修得している。(知識・理解)

(2) 社会人として求められる文章表現の技術を修得している。他者の意見を聞きかつ自らの考えを正確に伝えられるコミュニケーションスキルを身に付けている。また、一定レベルの英語によるコミュニケーションの力を修得している。(技能)

(3) 文学、文化、英語、人間の心理等のそれぞれの分野を通して、そこから自分なりのテーマを見いだす問題意識や思考力を修得し、そのテーマを表現する力を身に付けている。(思考・判断・表現)

(4) 他人を気遣うやさしさを失わず、自立した人間として成長するための積極的な学修への意欲を持っている。(関心・意欲・態度)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/junior_college/bunka/purpose/)

(概要)

- 文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つのコースに沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。
- 各コース共通の科目群として、文章表現力、コミュニケーション能力の養成を目的とした「リテラシー基礎」、豊かな文化的教養の養成を目的とした「カルチャー科目」、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す「キャリアサポート科目」の科目群を配置する。
- 日本文学・表現コースでは、共通の科目群のほか、文章表現を重視し、現代社会の情報を的確に選択・活用する力を養う「リテラシー」、古典から近現代までの日本文学への理解を深め、言葉の仕組などを身に付ける「リテラチャー」、児童文学、映画、演劇論などから小説の創作手法を身に付ける「クリエイト」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。
- 英語コースでは、の共通の科目群のほか、「読む、書く、聞く、話す」の英語運用能力の4つのスキルを身に付けるための「4 Skills」、英語の分析的な研究、英語文学作品の鑑賞を通して英語の知識のほか幅広い教養を身に付けるための「Language & Literature」、英語通訳・翻訳など社会で役立つ技術の修得やTOEIC500点以上を目指す「Business Skills」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。
- 心理学コースでは、の共通の科目群のほか、自分を知ることによって自分を表現する力を養う「自分を知る」、心理学分野の基礎（発達心理、臨床心理、教育心理、カウンセリングなど）を体系的に学ぶ「心理学の基礎を学ぶ」、その基礎の応用（コミュニケーション心理、消費者心理など）を身に付ける「人間を知る・学ぶ」の科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業演習」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。
- 文科と生活科学科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学共通講座（14テーマ）」を配置し、各テーマに属する科目（教養教育科目、両学科専門科目）を受講することで、その領域の問題意識を深め、考察力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/junior_college/bunka/purpose/）

(概要)

文科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

(1) 高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)

(2) 「国語」と「英語」に興味と学習意欲を持ち、聞く・話す・読む・書くという基礎的な技能を高めることに喜びを見出すことができる。また、数量的な思考力を養うために「数学」を幅広く学修しているとより良い。(知識・技能)

(3) 課題に対して多様なものの見方ができ、論理的に考える力を有し、授業を通して「自分」を認識できる思考力・判断力を持つ事ができる。(思考力・判断力・表現力)

(4) 他者との意思疎通をはかり、目的達成に向かって協働できるようなコミュニケーションの能力を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(5) 人の心を理解し、他者を思いやり、人のために尽くす価値観を大事にすることができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

(6) 将来にわたり、ことばとところに対する深い理解を持つことを心がけ、自分と人の人生を大切にすることができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

◎教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/purpose/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	0人	—					0人
生活科学科	—	5人	2人	0人	0人	5人	12人
文科	—	5人	1人	1人	0人	4人	11人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—		70人					70人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp/KgResult/japanese/index.html					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、副学長を委員とする全学FD委員会を組織し、FDの企画立案や具体的な活動の実施を行っている。具体的には、以下のような活動を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回「授業見学会」を開催している。原則として全ての授業科目について、教職員の見学を可能とし、教員が総合の授業を参観することによって、学内におけるアクティブラーニングの授業を共有化し、学生が能動的に学修に参加する授業への転換を助けるものとする。 ・年に複数回、FD研修会を開催している。学内外の講師による、授業方法やシラバスの在り方等、授業方法に関する事例についての講演の実施や、グループワークの実施により教員の教育方法の向上に努めている。 ・年度当初に、新任教員を対象としたFD研修会を開催し、成績評価の在り方等、大学教育における基本的な事項の堅守を行っている。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活科学科	100人	88人	88%	200人	210人	105%	0人	0人
文科	100人	47人	47%	200人	120人	60%	0人	0人
合計	200人	135人	67%	400人	330人	82%	0人	0人
(備考)								

b.卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活科学科	113人 (100%)	42人 (37.2%)	56人 (49.6%)	15人 (13.3%)
文科	117人 (100%)	58人 (49.6%)	42人 (35.9%)	17人 (14.5%)
合計	230人 (100%)	100人 (43.5%)	98人 (42.6%)	32人 (13.9%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 横浜信用金庫、東洋紡、JA 全農、ひかりのくに、国分グループ、MU センターサービス 他
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑥ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 【様式第 2 号の 3 より再掲】 全授業科目について、シラバスを作成し、公表している。シラバスには、「科目概要」「到達目標」「単位修得目標」「授業形態」「授業方法」「授業の進め方の概要」「各回の授業内容」「事前・事後学修」「成績評価の基準」「評価の方法と配分」「テキスト」「参考文献・参考 Web サイト等」「課題図書」「履修者へのメッセージ」を記載している。

⑦ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】

授業計画(シラバス)策定時、①試験、②レポート、③(授業内)小テスト、レポート、④平常点(学習意欲、履修態度等)、⑤その他の評価方法を適切に用いて成績評価を行うよう計画をしている。また、成績評価実施時は、当該授業科目の到達目標に照らし、評価基準を以下のように定め、厳正な成績評価を実施している。

(成績評価)	(素点)	(内容)
S	90~100点	到達目標を超えたレベルを達成している
A	80~89点	到達目標を達成している
B	70~79点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している
C	60~69点	単位修得目標を達成している
D	59点以下	単位修得目標を達成できていない

(科目の成績評点(GP)×単位数)+...+(科目の成績評点(GP)×単位数)÷登録科目の総単位数(評価D・Xの単位数も含む)

※グレード・ポイント S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0 D・X:0.

※到達目標:当該授業科目が目指す学修成果のレベル

単位修得目標:当該授業科目で最低限修得すべき学修成果のレベル

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、公表している。各学部において、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムチェックを実施し、各授業科目の到達目標を定めている。各授業科目においては、到達目標の達成水準を基準に成績評価を行っている。したがって、各授業科目における成績評価を適切に行うことで、適正な単位の認定が行われ、卒業要件単位を満たすことにより、ディプロマ・ポリシーの要件を満たすことを保証している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
-----	-----	-----------	----------------------	-----------------------

生活科学科	—	62単位	有・無	44単位
-------	---	------	-----	------

文科	—	62 単位	有・無	44 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/campus/kyoritsu-wu_guide_u.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/undergraduate/asesumento.pdf https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/disclosure/student-info/		

⑥校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/disclosure/campus-info/>

⑦授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	生活科学科	750,000 円	150,000 円	440,000 円	施設設備維持費 390,000 円 実験実習料 50,000 円
	文科	750,000 円	150,000 円	360,000 円	施設設備維持費 360,000 円

⑧大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>（概要） 担任制度により年度始めに全局面談を実施している。 教務課で年 4 回出席状況を集計し、欠席率が低い（67%未満）学生の情報を学部に関連、担任が面談した記録をシステムに記録、記録内容は教職員で共有している。 GPA の低い学生について、年度末に保証人に通知し、学部では履修指導を行う。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>（概要） 個別相談やキャリアガイダンス/プログラムの実施、インターンシップ支援、各種資料の公開等を行い、学生個々の進路選択を支援している。また、転学部・転学科・転専攻の制度も設け進路変更への支援も行う。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>（概要） 学生相談室では、学生生活に関する相談に応じ、必要に応じて関係部署と連携を図っている。「学生相談室だより」などで心の成長や健康に関する情報を発信している。教職員対象の研修会を開催し、学生への支援方法を習得する機会としている。</p>

保健室では、毎年健康診断時に全学生との問診を実施し、健康状態と修学支援の確認をしている。また結果を元に学校医との面談を実施している。年に3～4回「保健室だより」を発信し、健康や感染症の予防と対応について情報提供している。

◎教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F213310104222
学校名	共立女子短期大学
設置者名	学校法人共立女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		37人	35人	39人
内訳	第Ⅰ区分	15人	14人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				39人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	-	-	-
計	-	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	-	0人	0人
GPA等が下位4分の1	29人	-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-	-	-
計	33人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。